

からつて小番頭丁釋小僧の出代りだ。則ち大資本家に、國家の所得たるべき國家の大生産權を盗まれてゐるために、國家は年々莫大な貧乏をし、國民はその貧乏を埋めるために、税金の重荷を地獄の土産にまで背負込まねばならぬのだぞ。一枚の木綿着物にも、一個の烟草にも、漬物の鹽にも、間接税といふ國民の眼を暗ます方法で、税金は毒藥のやうに盛り込んであるんだ。呉服屋が欲張る、八百屋がするいなどゝ考へるのは方角違ひだ。飛び切り御目出度く出来てらア。大鐵山にしてもそうだ。足尾や小坂や日立や、九州の炭坑で賃金を上げると叫び、ストライキの叫びは牢屋入りだ。こん

なことが社會主義と教へた青二才共は片輪者だ。ほんとの社會主義は、大鐵山其者を國家の所有とし、國民の經營として國家國民が共々に富み、共々に生産を多くして行かうと云ふのだ。言ひ換ゆれば俺等が命がけで働いた地下の富は、其土地の所有者たる大日本帝國が取るべき者だと云ふのだ。も一つ言換れば、三井や久原や大倉のために、日本國民たる我々は斷じて働くのではない。我々のため日本國のために働くのだ。彼奴等素町人共は、昔の殿様と同じく、黄金大名となつた。殿様共が鯉節だのナマリ節だの家來として、平民から繰り取つたやうに、黄金大名共は、重役とか顧問とかの家來共